

昭和三十三年一月十六日
第一回臨時會々議錄

昭和三十三年館山市議会才一回臨時会全議錄

昭和三十三年一月十六日午後二時館山市議会才一回臨時会を館山市役所分館会議室に招集

出席議員(三十二名)

一番	石井 潔	二番	高橋 文治
三番	伊勢仙之助	四番	小浜 光義
五番	後藤 ゆき	六番	秋山 万次
八番	金木 久一	九番	安西 政治
十番	田中 禄郎	十一番	脇田 順一
十三番	小沢 太助	十四番	中村 良五
一五番	小谷 魚達	一六番	田村 喜兵衛
一七番	嶋 貫雄作	一八番	佐久間 為次郎
一九番	黒川 佐太郎	二〇番	山口 房右
二一番	萩生田 七郎	二二番	小沢 恵太郎

二三番 福岡保徳

二四番 山本 昇

二五番 松本藤太郎

二六番 可世木 牙蔵

二七番 鈴木 孝

二九番 遠山 司木子

三〇番 磯辺周雄

三一番 大野 清五郎

三三番 望月輝作

三三番 田中 忠蔵

三四番 飯田義男

三五番 嶋田 繁

一欠席議員(三名)

七番 鈴木市蔵

一二番 吉田勇治郎

二八番 山口 康

一、法才二百三十一条による出席説明員

市 長

田村利男

助 役

小出武男

収入役代理

眞田森吉

総務課長

完 戸 貴

保險課長

唐沢貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

秘書課長

山谷潤昶

戸籍課長

高木哲三

厚生課長

神作啓太郎

福祉事務所長

長谷川広治

農産統計課長

吉田耕一

税務才一課長

山口 実

税務才二課長

伊藤幸壽

診療所事務長

池田亮山

盗査委員

関 武夫

警備委員会教育長

工藤和平

教務委員事務課長

鵜沢實寛

本議会の事務局長、書記および職員

事務局長

高梨清一

書

記

太田博雄

職

員

畑中弘敬

同

山口

藤田

昭和三十三年第一回館山市議会臨時会議事日程

昭和三十三年一月十六日午後二時開議

日程才一

報告才一号

昭和三十三年度一月例月検査報告

日程才二

認定才五号乃至才十号

(決算審査特別委員会委員長報告)

日程才三

臨時出納検査立会議員の互選について

日程才四

議案才一号

昭和三十三年度館山市特別会計国民健康保険六号出

追加更正予算

日程才五 議案才三号 昭和三十三年度館山市才入才出追加更正予算
一 本日の会議に付いた事件

議事日程に同じ

○議長(石井潔君) 本日の出席議員数三十八名、これより昭和三十三年
才一回館山市議会臨時会を開きます。

○議長(石井潔君) 本臨時会の議案審査のため田村市長、小出助役
眞田收入役代理、兎戸課長、唐沢課長、羽山課長、新井課長
山口課長、高木課長、神作課長、長谷川所長、吉田課長
山口課長、伊藤課長、池田事務長、岡並査査委員、工藤
教育長、鵜沢庶務課長以上の出席を求めましたので御報
告申し上げます。

議長(石井梨君) つづいて会議録署名員の決定を行います。

お諮りいたします。従来の例にならういまして議長の名に
よって決定することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井梨君) 御異議なしと認めます。よって八番議員金本
久一君 二十九番議員遠山ヨネ子君 以上御兩名に決定いた
します。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井梨君) 御異議なしと認めます。よってさよう決定いた
します。

議長(石井梨君) つづいて会期の決定を行います。

本臨時会の会期につきましては議会運営協議会の意見は
本日一日ということになります。

お諮りいたします。会期を議会議堂協議会の御意見通り
決定いたしますことに御異議ございませんか。

(御異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井梨君)御異議なしと認めます。よって会期は一日と決
定いたします。

議長(石井梨君)つづいて議案を配布いたします。

(議案配布)

議長(石井梨君)今日の議事はお手許に配布の日程表により逐次
上程いたします。

助役(山武男君)審議に入ります前に一言御了承を得たいと思ひ
ます。

本日昭和三十三年の当初の臨時市会を招集いたしましたところ

皆さまおつてろいて御参集やがいまーてべからあれ申上げます。
本日は市長が昨日から国立公園の補助金の件につままして
厚生省の国立公園部からとくに依頼がありましてたためにソ
ちらの方に上京しておりまして今日の会議にはちやうと間に合
かぬかと存じますのでその点あーからず御了承ねがいた
いと思ひます。

本日御提案いたります議案はかねて告示申上げましたように認
定五号ないし十号の御審議 臨時と納検査立会人の互選 特別会計
国民健康保険に関する入支と更正予算および昭和三十三年の鑑山市支
入支と追加更正予算の諸件でございます。いずれも当面緊急を
要するものと存じましておねがいする次第でございます。

個々の点につきましてはそのつど御説明申し上げたいと思ひますの
でよろしく御審議の上御賛成下さいますようにおねがい
いたします。

。議長(石井潔君) それではこいより日程に入ります。

日程第一報告第一号を上程いたします。

(書記朗読)

報告第一号 昭和三十三年度一月例月検査報告

(関武夫君登壇)

。監査委員(関武夫君) 一月の十三日に実施いたしました例月検査の結果の報告について説明申し上げます。

まず一般会計であります。市税におきまして二千三百二十四万円余収入しております。この内訳は市民税が約四百五十万円、固定資産税が約二千五百五十万円、たばこ消費税の十二月分が百三十三万円、千五百五十円、その他電気ガス税が約九十二万円、都市計画税が約七十分円等が主なものでございます。市税の収入未済額が五千八百円記載されておりますが、納期の到来しないものを差引きますと正味の滞納額が約三千四百六十万円余でございます。

つぎに税金収入におきまして二千四百十五万四千余入っておりますが、このうち主なものは産業経済費の分担金が今回はじめて入っております。これは岡田、出野尾、神余、畑中、畑等におきます暗渠その他用水路の工事に対する地元の分担金でございます。七十八万七千円余入っております。その他使用料、手数料で百五十万四千円、国庫支出金として九百八十七万九千円ございます。この国庫支出金の内訳は生活保護費が三百四十五万四千余、それから都市計画税におきます街路整備事業費の補助金として五百万、新農山村、農村対策費の補助金として八十二万二千円等が主なものでございます。

つぎに支出におきまして三千八十六万四千余入しておりますが、御承知の通り年度末の手当が相当出ております。

その他教育費におきまして九百十三万四千余入しておりますが、豊房小学校の講堂修繕費として三十万、館山小学校の講堂修繕費として二十万、北条小学校の屋根のふき替え工事費と

して六十六万四千二百の屋根ふき替えの工事費として甲が十九万五千二百が二十三万四千等が主なるものでございます。なお一般会計から国民健康保険会計へ九十五万一時流用されております。

なお雑部金繰入分として二千三百九十円記載とありますがこれは果市民税を徴収して本来雑部金へ入れべきものを誤って一般会計へ繰入れた分でございます。一月になってすぐに訂正されております。

なお十二月末で三十三年度も四分の三を経過したわけでございますので、ここで昨年度と比較して徴税の状況、予算執行の状況をささっとみたいと思います。

徴税歩合におきましては三十三年度は十二月末で現年度分が八、五パーセント、滞納繰越分が二六、八パーセント合計しまして六五、四パーセントの成績でございます。ところが本年年度におきます割合は現年度の分として八五、二パーセント、滞納繰越分が三二、〇パー

セント合計して七三〇パーセントの成績を納めております。

予算の執行割合につきましては三十三年度は支入において六六パーセント支出において六二・八パーセントでありました。

本年度は支入にあきまゝして七四・四パーセント支出にあきまゝして六七・八パーセントを示しております。

以上で一般会計を終りましてつぎに特別会計に移ります。公益質屋会計は大体この表によつて御了承いただきたいと思います。貸付現在高のうち船舶質屋が百三十二万四千三百七十九円、富岡質屋が六万五千五百円、合計百九十二万九千三百七十五円となります。つぎに国民健康保険にあきまゝして収入の部において保険料の未収についてであります。納期が到来しないものを除きますと正味の滞納額が約八百四十万円余となっております。以上で例月検査の報告に属する説明を終ります。

議長(石井 潔君) 本報告に對し、まゝして御質疑等ございますか。

御質疑がなければつぎに移ります。

御質疑ないようにつに認めます。それでは日程カニを上程いたします。

○議長(石井衆君)日程オニ認定オ五号ないーオ丁号を一括上程いたします。

本件はとにもとまる丁二月二日上程のオ四回定例会にあきまゝして特別委員会に閉会中の審査に付されたものであります。従いましてこいより決算審査特別委員会委員長の審査の経過ならびに結果について御報告を求めます。十七番議員嶋貫壮作君御登壇の上御報告をお願いします。

(嶋貫壮作君登壇)

○十七番(嶋貫壮作君)決算審査特別委員会における認定オ五号ないーオ丁号の審査の経過ならびに結果について御報告申し上げます。

る十二月二十日招集の第四回市議会定例会におきまして御
選任をいただきました私ども決算審査特別委員会に閉会
中審査の特別付託となりました認定第五号ないし第六号
の昭和三十一年度決算書書の審査を一昨十四日委員会を
招集いたしまして各会計における決算書を慎重かつ精細に審
査を行いました。

甲上けるまでもなく本決算書につきましては監査委員にお
きまして長期にわたりきわめて厳格かつ公正なる審査を實
施された結果の意見書がはなれておりましてその正確なる
ことが認められてあるのであります。私ども委員といたし
ましては議会の立場より付された趣旨を体しまして種々
多数の質疑を行いました。ここにその具体的二の事項
を御紹介いたしますと監査委員の意見書にもございま
す通り予算の項内流用は当局が予算編成に當って初

期の目的に合致しないような結果をもたらすことになるのではないかと、の質問に對し、まゝて、多額と思ひゆる項の流用につまゝしては、教育費と土木費にあり、まゝて、これは追加の財源を求められず、また、財政再建の意図に於いて、止むを得ず、取用の措置をとらねば、の答弁がありました。

また、三十一年度決算において、未整理の主なるものは、なにかという質問に對し、まゝて、市税の滞納と保険料の滞納が主なるものである、との回答がありました。

なお、保険に關連して、国民健康保険に對し、まゝて、国として補助金の増額の見通しがあるか、との質問に對し、まゝて、現在厚生省で考へていることは、事務員の全額補助と、現行三割であります、医療費を三割にする、ということを目標においている、ようですが、ただいまの様子では、あまり樂觀的でない、という見通しが強い、ようである。

ります。おのの説明がありました。

なお固定資産につきまゝ市として固定資産の減価償却はどうかやっているかとの質問に対して市といた。まゝでは三年目に市独自の立場で固定資産評価委員が一軒一軒みて回りまゝでそれにより自治庁の示す規定によりまゝ正しくやっているかの答弁がありました。

なおお手許に配布いたしました正誤表は各決算書の誤字誤植でありまゝで詳細調査の結果各決算にはなんら計画的に異常はありませんのでそれぞれ御訂正下さるよう希望申し上げます。

その他決算書の各項目にわたって多種多岐にいろいろと活発なる発言がありました。誠に簡単であります。委員会の審査の状況の一部を申し上げたのみでございます。

以上の通り付託を受けました認定が五子ない一カ十字の
決算書目に対しては、その正確なることを認め、金会一致で
認定することに決定いたしましたので、ここに御報告申し上げる
ものでございます。よろしく御賛同のほどをおねがい申し上げます。

議長（石井潔君）ただいま委員長より報告されました決算
書の誤字誤植は印刷の誤りで、委員会より提出されました
た正誤表の通りを訂正することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。それで、よく御訂
正をお願いします。

他は御質疑ございませんか。

○二五番（松本藤太郎君）委員長さんになんとお伺いしますか、
何で、たゞり監査会委員の方でいいんですが、内容についてのこ
とではありません。結構的な方でございしますが、

三十二年度はなるほど再建整備というふうなことにぶつか
りまゝで各課が非常に削減をくった苦しいなかをやつて
また。結局結果としては二千万の黒字がでたという
ことで非常に新年度でも賛成しており実際に苦しいことであ
りますが一かゝりいれいれといひまゝではこの決算書を見
ますと二千万の繰越が出たというふうなもの手度内に
おいては三千数百万の不用途が出てあるわけです。それ以
上の金は使つておられないこれは各課が一割ない二割という
削減をなすたのでそうなたでありまゝようがこれを努力
ということはどういうところに努力があったのか実際は各課
の出すべきものをささなかつた。こつこつことだと思ふ。

これに對して非常に当局のセカカということであつてありま
すがこつこつた予算を最初に計上したものがやるべきものと
やらないうで行くことが果していいか悪いか。その点について

局はそんな気持ちも持つておるとすれば誤りでないかということ、
ふうにかんがへるんですけれども……

○七番(嶋貴社作君) そうですね、實にも意見もございまして、
○三五番(松本藤太郎君) その点について私、監査委員の方にお尋ねした
いんですが、私は以上申し上げましたような考えを持つておるんです
が、いかにしてもんでいこう。監査委員の方では非常に實めてあり
ますけれども、なるほど立派なもんですよ。立派なもんなんですけ
れども困った時にはみんな切れて行くんだということが果してど
うか。教育費においても社会労働費においても予算に組んで
も使えておらない、ということさ……

○監査委員(岡武天君) 私の考えをお答えいたした、と思います。
申し上げるまでもなく、予算というものは執行部から提せられ
まして市議会の協賛を経てそこで執行するわけでありま
して、決められただけのことさや、行けることが本来の建前で

ございまして、いつでも、いかにできるわけ、切りつめて、あまり事業をせずにあまーて行くということ、決まて望まーへことではございせん。あーやる通りでございます。

たゞ三十二年度は財政再建の途次であります。執行部におきましては、決められた予算を執行するに當つて、できるだけ節約してやて行くという方針のもとに、いろいろ切りつめたわけでありまして、決められた予算を切捨てて、やったというふうには、私考えられませんが、その節約して、黒字にして行こうと努力して行つた。その努力を買つたわけではございせん。以上であります。

○三五番(松本藤太郎君) 査査委員にお尋ねするのは、かゝつて間違つたかも知れませんが、了解いたしまして。

ただ私が甲上げることは困つたときに、すぐにさういふふうには支出を抑えて行つて、さういふことはどうか要するに

予算を組むときに過大な予算を組んでおりないということ
は、きりきりておるのに、さらに削減するということは考えられ
ない。こんごも節約は結構です。当然やるべき節約はすべき
であります。本當に支入の面でも出てきた数字というもので
やっていたいて、当初予算化したものを切つて、まづやると
いうことはなるべくなり避けてもらいたく、私節約するといふ
ことには当然賛成であります。そうべう様は過大な予算
は組んであるはずはないわけなんですから、そういう実将来
についての希望を述べさせていたゞきます。

○議長(石井潔君)他に御質疑ございせんか。

お諮りいたします。認定第五号ないし第十号討論を省
略一括して採決いたしますことに御異議ございせんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議ないと認めます。

こいより採決いたします。議定が五早なさい。オナ手昭和三十一年
度一般会計ならびに特別会計決算書は決算審査特別委
員会委員長の報告通り認定と決することに御異議ござい
ませんか。

（「異議ナ—」と呼ぶ者あり）

議長（石井 潔君）御異議ナ—と認めます。
よって決定いたしました。

議長（石井 潔君）ついで日程オ三臨時と納検査立会議員の互選
を行います。

議長（石井 潔君）互選の方法についてお諮りいたします。
従来の例にならいます。てお手許に配布の中合せの通りに決定
いたしますことに御異議ございせんか。

（「異議ナ—」と呼ぶ者あり）

。議長(石井潔君)御異議ナシと認めます。

。さて議長、副議長、監査委員、およびいままで立会議員となつた方々を除いた全議員の抽選により決定することに決まりました。

抽選棒の先端を黒く塗つた棒をお引きの方を当選人といたります。

。議長(石井潔君)これより抽選を行います。

(抽選)

。議長(石井潔君)だいたいの抽選の結果を申し上げます。

五番議員後藤ゆき君、六番議員佐久間為次郎君、七番議員福岡保徳君、八番議員遠山ヨネ子君以上の通り昭和三十三年二月に行われます臨時出納検査立会議員に決定されました。

議長（石井梨君）日程第四議案第一号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第一号 昭和三十一年度館山市特別会計国民健康保険
入金の追加更正予算。

。保険課長（唐沢貞太郎君）議案第一号を御説明申し上げます。

本更正予算は直診会計の薬品費、原料費のうち薬品費が不足いたしましたので三十万円を追加しまして、その財源に更正給の更正八万円、雑料の更正七万円、備品費の更正十五万円と財源としまして更正いたしましたものでございます。以上説明を終わります。

。議長（石井梨君）本案に対して御質疑ございませんか。

。三四番（飯田義男君）三十万円薬品費を追加する必要がござい
るんですが、どういうわけでこういう結果になったんですか。

詳しく説明させていただきます。

○保険課長(唐沢貞太郎君)当初約八十万円を見越しておたんでございますが大体十二月でこの金額がほとんど出てまいりましたので、三ヶ月分約十万円おかりしますんで三十万円を必要としたものでございます。

○三四番(飯田義男君)必要なのはわかるんですがはじめの予算がう大分おれが出てきたということはなんかに原因があるはずじゃないですか特別病気が多かったとか。

○保険課長(唐沢貞太郎君)特殊の病気の傾向といえますのは大体十二月に流行しました流感が非常に使いましたものでそれいかりもうひとつ従来一名であつたものが二ヶ月くらい二名の医者者がありまして内科と外科の医者がありましてたので両方の薬を使った関係で最後になりました不足いたりましたものと思ひます。(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長(石井潔君)本案に対して御異議なしと認めます。
よって本案は原案通り決定いたしました。

○議長(石井潔君)つづいて日程ヲ五議案ヲ二号ニ上程いたします。
(書記朗読)

議案ヲ二号 昭和三十一年度館山市支出入支追加更正予算
○戸籍課長(高木哲三君)市役所員の諸員の外人登録事務協
議金負担金十万円を追加おねがいいたしますが、これは県下十七市
の協議会に加入するものですが、館山市長が外人登録の協議
会長をやっている関係で市は素通りで十万円追加をおねがい
いたしたわけでございます。

○建設課長(新井重助君)ヲ四款土木費について御説明申し上げます。
道路修繕費のうち修繕料十万余円、これは外ラックの工

ここに非常に悪くなりましたので一応ボーリングいたいたいと存じましてここにおねがいする次第でございます。

備品費は五万更正いたします。

カニ目の新設改築費は大石神余線の市道改修拡張でございますが当初改修計画のうち三十五万一千円の経費を充ててやる予定でございましたが今回実測の結果これが道路の長さが四百三メートル幅五メートルに改修します。これによりまして工事が四十二万五千円となりましたのでこの工事を直営でやります関係上当初予算の各節の費目からここにホータのように更正したいと存じます。

つぎのページでカニ目の河川港費 二目の新設改築費におまゝして船形港修築維持工事費でございますがこれは船形港をいま改修しておりますので中央にもます長さ百メートル幅五メートルの突堤の上に上張りコンクリートをやりましてその上に上

屋を建てるのでございますが、その工張りコンクリートと急遽にやるといふので、県の単独工事費がここに参りましたので、その負担金として四十五万追加をおねがいする次第でございます。

調査費におきまして、旅費が不足になりましたので、四千七百四十円増額いたしました。印刷製本費から回りたいと存じます。

なお前項の負担金および補助金三十三万円と減額いたしましたんですが、これは県のやります県道工事の工事費が縮減されましたので、市より負担する額が必要になりましたので、以上の財源に充てました。以上でございます。

総務課長(完戸貴君)以上おきの追加額が七十五万四千九百九十円になります。更正減額五十一万四千九百九十円で、結局三十五万円の追加になります。

おへにつきまゝでは、外人登録の補助金が十万円、土木寄付金か

二十五万でございますが内容はご覧の通りでございますので御説明を省略いたします。

○ニ五番(松本藤太郎君)外国人の登録の金十万円ですがいま課長さんの説明ですと館山の市長が協議会の会長になったんですが。

○戸籍課長(高木哲三君)なっています。

○ニ五番(松本藤太郎君)なんか素通りするんだというふうな……。

○戸籍課長(高木哲三君)これは県下十七市で外国人登録事務協議会というものができておりましてその会長が市長になっている関係で県で各十七市別々にやっていたのを一ヶ所にまとめるより県が館山市にまとめて十万円出してそれを館山市から協議会に出すように指令がきた関係で計上したようなわけでございます。

○ニ五番(望月暉作君)いまの問題ですが協議会長という問題には関

係なく十万円たり支出することに間違いないんで協議会の会長の
ためだということはないわけですね。

三十三年の道路橋梁改良費負担金三十三万円の減額でござ
います。この減額について果からの工事が中止されたからという
説明でございますが、どこの路線が中止されたかお伺いします。

○建設課長(新井重助君) 中止じゃなくて富崎の舗装工事をや
まーたー西岬の工事もやりまーた。ただ神余西長田地先の道
幅員の拡張でございしますがその分が減ったのでございします。

○十三番(沢太助君) 建設課長にちよとお伺いします。船形渠港
の維持工事費の予算の件ですが年間百万円で半分は五十万のう
ち二十五万を受益者負担とすることとで入る方にも二十五
万円寄付受入りの予算が出てあるんですが工事負担の方は四
十五万になっておりますが、どういう関係ですか。

○建設課長(新井重助君) お答えいたします。

一応百万でございまして、市の負担金は五十万でございします。当初予算のうちにまだ五万円の残金がございますので、それを充てて四十五万追加いたしまして五十万といたす考えでございします。

○十七番(嶋貫壮作君) いまの十三番議員の質問に關してゐるんですが、それをもう一回は、きり説明して下さいませ。

私ははじめてでわかりませんから、果實が百万だからわかりませんが、その点をもう少しは、きり説明して下さい。

この二十五万というのは、船形の寄付金と考えられるんですが、地元の実業組合は承知しているかどうか、という点を御答弁をお願いします。

○建設課長(新井重助君) 先ほど申し上げましたように、荷揚場でございしますが、荷揚場を突堤の長さ四メートル幅が十八メートルとなりまして、その面積にコンクリートの舗装をするわけです。その費用

が百万円かかる。百万円の景観工事でございますから地元負担金が二分の二でございますので五十万追加いたします。

今回の追加は四十五万でございますが、当初予算に四百五十万計上をいただきまゐりました。そのうち景の方の負担金といたしまして送りまゐった金が四百七拾五万で五十万の残がございますので四十五万を追加いたしまして五十万といたします。

○十七番(嶋貴壮作君) それでは地元の寄付金を五十万円減らしてもらつたういぢやないですか。そういうふうにするばなるんでしよう。地元になるべく寄付金をさけないこととでもうやむないと困りますね。地元で承知してゐるんですか。

○建設課長(新井重助君) 地元の方から組合長さんをおいでになりまして二十五万負担いたしますというので今回計上した次第です。

○二番(萩生田七郎君) いまの二十五番さんの質問に關係してゐるんですが、こういう予算形式はいいもんか悪いもんか、私ははじめてですが、

外国人事務登録料となつてゐるのは……（私話する者多くまた発言不明瞭にて聴取不能）館山市からもらった金を各市にやるようにな……十万円というものは要するに……

○助役（小出武男君）外人登録事務協議会というのは先ほど説明いたしましたように、果が外郭的な機関を持つてゐるわけなんです。これが十七市の外国事務の担当者をもつて組織してゐる会なんです。外人登録事務が非常に面倒な仕事であるといふので、とくに各関係主任を集めていろいろ研鑽をしてゐる会がこれなんです。この会へは果が十万円ザックバラに申しますと補助金を出したわけなんです。ところが十万円を十七市にわけると申しました。直接団体に補助するといふ形式がまずいといふことなんでございまいよう。たまたま市長が会長をやつてゐるんです。それで予算を通つてやつてもらいたいといふことの甲入れを受けましたので、不本意ながらやしたのでございまして、隔月ぐらゐに各

地で研修会をやりましてそこでいろいろ印刷したり研鑽の資料なども発行してあるようにございますのでまわめて眞摯なまじめな会合だということで市長会でこの会だけ残してあるんでございます。

〇三番(萩生田七郎君)わかったがなぜ外人登録事務員となつてあるのか協議会に對しての助成じゃないんですか。これでは各市に對して館山市がセキかハキ寄付する形式なりこうしたのはまずいと思う。会長さんであるが故にこういふことをやるというのは形式的にまずいと思う。もうグー御注意ねがいたい。

〇助役(いし武男君)こんごういふことはやらないようにいたしますが今回だけ一応たのまふまでしたので……(笑聲)。

〇十七番(嶋貫壮作君)一応はいいですがほかの市のものをなぜ館山市で負担するんですか。

〇助役(いし武男君)館山市で負担するという形式にはなりますが

館山市で予算を通してやってくれともしろん館山市独自の財源は負担してはいないわけなんです。

本質的にはこれは予算形式としてはどうかと思いますが、いま申しますようにたまたま市長が会長をしておるといふことでこゝえきたんだと思いますのであーからずんといつ御了解がいたいと思います。

〇十七番(嶋貫壮作君) 会長を起しているかどうかは知らないが館山市は(赤)或心にかかる。事は十万円でも各市が負担してとすんならいいですけれどもこゝだけでとすという手はないでしょう。

〇助役(小武男君) この十万円は県からきてるわけですよ。

〇十七番(嶋貫壮作君) そのほかにはいろんな役員がいるでしょう、役員を通じて各市に働きかけて各市から六千円でも八千円でもといふようにあやリになつた方がいいと思う。館山市だけが負担するといふことは館山市の予算でないですね。そういうものを認め

させられておいていけばまたいわれたときに困りますすからぬ。

○助役(いし武男君) いま申しますように県が十万円よこしてその金を
さこうちえやるといふ形式でございますから、財源は「了解」
「県からくるんですか」と呼ぶ者あり) そうですね、県からよこ
してその十万円を協議会へやるわけなんです。(「収入と支出、両方
書かなきゃいけないですね」と呼ぶ者あり) 書いてあります。

○三番(伊勢仙之助君) この問題ですが県の予算措置として県から協議
会に補助金を出せるといふふうな形式で県から協議会に出て
もらう方がすっきりしていると思つてんですが。

その予算措置ができないということがどういふわけではないか
その点こんごできるとすれば、そういう形式をとってもらふ方が
すっきりいいんじゃないかと思つてんですが、その点、県の
予算措置上の問題についてなんかは、すっきりした御見解が
ありま—たり承りたいと思つています。

○十七番(嶋貫杜作君)それでこの十万円かきりて終るといふ見通しは確実ですか、それでよりかかったとき館山市がまた負担するといふことになる(笑聲)そういう含みがあつてすることじゃないかと思ひやる。館山市を通す性質のもんでないと思ひう。

○助役(小出武男君)十万円以上でた場合は全然関係ございません。それでいまま甲一ますように本来なら県が直接外人登録事務協議会に補助金として流すのが本来の筋でございますが、たまたま非常に事務的●課の予算を流用してでもやらないやないかと推測でございますが、もう少し大きな金でありますれば県として予算にとつて堂々と流すべきと考えますが、十万円でありましたので、県会にもかけず課が一応予算の流用ぐらいで、どうかといつて、予算を通さずにまゐりてきませんので、市の自治体に委託してここからやってくれ、というふうに持つてきたように私は察せられるので

ございます。(「あなたは察せられるけれどもこっちは察せられない」と呼ぶ者あり)

〇三番(福岡保徳君) いまのに関連してあるですけれども県がとせる金を市に持ってきて市ですすということは県と同じ立場でやはりいけないんじゃないかと思うんですけれども、監査委員の方にこういうことをやていいものかどうか。

〇監査委員(関武男君) お答えいたします。

私はよくわからないんですが先ほど助役さんの説明で県の成規の予算に計上して県会の承認を得てとすほどの額ではないんでそれを県会へとさずに予算を流用なんかで補助してやるんだというふうな県の課の気持ちでとてやると、だけでもとす術がうまくいかなかったり市へ流して市からとすんだというふういんですが市というよりましては市の予算に計上されて議会で議決されれば、それから出す分には監査委員としては

差支えないと考へてあります。

○十七番(嶋貫壮作君) 奥さんのあげ足をとるわけではないんですが例
えば、館山市の予算へ組んで、市のためには使えないと思つ
んで、この点はいかがですか。

○逆有委員(岡武男君) この金は果が外国人登録事務協議会と
いうものゝ市が十万円出す形になりますか(「その協議会へ出
す」ということが不合理になるんじゃないですか、館山市の市長と
協議会の会長とは全然別個な人格者にならなまやならない。
それを市長のなんによつて出す」ということはと呼ぶ者あり)
館山市の財源から十万円、市長が協議会長なるが故に出すと
いうことになれば、これはお話の通りによつて、市の分まで
館山市が負担してやることになりまゝてきわめて不合理な
んで、当然、それは考へられないわけですが、先ほどの説
明によりますと、財源は果から十万円きますんで、それを

ただ市の予算を通じて変則的に出すというもののよう
ですから市から出しても館山市が各市の分まで負担して
やるんだというふうには考えられないと私は思います。

○十七番(齋嶋貫壮作君)考えられないとお考えになれば、こういうふうなことにしないではきりとした立場でやれることがあると思ふんです。館山市を通じて館山市に迷惑をかけてなんにも知らない人はどうも納得はできかねるんですが。

○三番(森生田七郎君)小さい問題のようですが、こうした前例をつくりますと予算の形態というものを破壊する。ですからお伺いするんですが、先ほど伊勢君がっしゃったようにこれは直接果から協議会に補助してかかるべきであつて館山市から流すというものは悪例化して予算の形態というものは破壊される。こういうおそれがあるんですが、助役さんはどういふことについてどういふふうにお考えですか。

○助役(いし武男君) 先ほど甲上げましたようにこの事件に關しましてはたゞかに御指摘の通りです。正常な考えとは私も考えません。こういうことが仮にしまつちうとなればまるで市の予算というものが変ずくりんなものになると思ひます。ただ先ほど申しますようにこの件につきまゝてのみ例外として。たまたま市長がこの会の会長をやつてあるといふ關係でこゝういふ形態を常にやるといふことには考へておりません。

○三番(萩生田七郎君) 先ほど甲上げましたやうな形態はとれませんか。それによらないと予算形態といふものはメタクちになつてゝまいますよ。どうお考えですか。今回だけ目をつぶれといつてもひとつの変態的予算を認めたといふことになる。こゝうしたことはわれわれとして考へべきものだと思ふ。

○七番(嶋貫壮作君) かなりな変則なやり方を考へて笑われますよ。よその市の人たちに笑われますよ。本當にほかに思ふ方法が

あいばだすべき理由もあつてするものを、館山市が背負いつ
んで笑われ者になることはないですよ。

〇三番(福岡保徳君)同じことのようですけれども、県会えかけられな
いものを市会へかけて出すということとは、また考えられる。

県が直接やってもらうようにしたらいいんじゃないですか。

〇助役(いし武男君)県会にかけられないということじゃないと思ひます。
かければかけられると思ひうんですが、先ほど申しましたように、
金額が非常に少ない額で、これだけ補助金として採上げべきに
はあまり事務的には、難である。課の計らいで、こういう措
置をとつたと理解してあるんでございしますが、正しくいま
すならば、県会にかけて、成規な形態において、その当該団体へ
流すと、これはむしろ、正當なやり方でございます。(その分
がいいよ、そつうてもらうまいよう、悪い方法ばかり送ぶことは
ないですよと呼ぶ者あり)

〇二四番(山本昇君)ただいまの問題ですが特別に十七市の協議会
ができておつてたまたま館山市の市長が協議会の会長である
がためにこつた便法を講じてもらいたいこつたような要請
のもとにやつたという説明でありますがこの協議会ができて
毎年こつたことをやつておつたのかどうか。また館山市の市
長が会長になつたためにやつたのか他の市長が協議会の会長
のときにもこつた措置をとつたのか、その点参考的にありえ
てもらいたいと思ひます。

〇税務カニ課長(伊藤幸太郎君)ただいまの問題でございますが、
おりました當時のことにつきまゝと御参考までに申し上げ
たいと思ひます。

この外国人登録事務員員の補助でございますけれどもこれはこ
にも書いてございますように法務省から各市町村に對しまして流
されております補助金でございます。

従来は各県を単位に――まして全部の県ではございせんけれども相当の數に上ります。県に對――まして協議会の名前に對して法務省から直接補助金が流れてあつたわけでございます。――かゝるなりこんどの自治法の改正といふ――やうか負担区劃の改正により――まして法務省と――まして県単位の協議会に補助金を流すことができなくなつたんだとてございます。

これは負担区劃といふ――やうか補助金の出――方の改正だとしてございます。協議會に對します。補助金のほかに各市町村に對――まして法務省は毎年登録人口の基準により――まして一般事務費の補助金を流してあります。――かゝるなり法務省の――局といた――まして非常に県単位の協議會が活発な運動をやつてあるのだなとか方法を講じて協議會にもいく分かの補助金のような形のものも流してやるという親で――方法といふ――やうては一般の市町村に流してあります。事務費にある程度割増――

をつけまゝて各県ごとに補助金を盛って参つておるわけでございます。そうしますと成規の一般事務費の補助のほかはたゞいま甲上げまゝたゞく介でも協議会にというような含みの金が多またま千葉県にあるまゝしては十カ円あるわけでございます。その十カ円も先ほど甲上げまゝたゞように補助金規定によりまして協議会名では支拂の困難である、であるから一般の事務費補助に加えまして協議会に補助金としたい、でたまたま当市の市長が会長であるので当市に対していま甲上げたような方法をとってもらいたいというのが実情でございます。やり方そのもののようありは別といたしまして以上のような内容でございます。ますので御参考までに申上げます。

○二四 横山 本昇 君 一応お話はわかりましたがいままで具体的にいいますと現在館山市市長が千葉県千葉市の会長をやつておる。そのためとてういった方法を館山市でおねがいしたい。

これは筋はわかりましたけれども、その前はどうか、
そのとらへず、ともしれておりますが。

○税務第二課長(伊藤幸太郎君) 先ほど申し上げましたように従来三工
年度までは協議会自体に法務省から来りておりました。

本年から変わったわけでございます。

○二四番(山本昇君) 去年までは協議会に対して直接補助金が出せる
今回改正でそうしたことができないので、こういう便法をとるとい
ことですが、前戸籍課長さんのお話をみますと、事務費のほかにい
く分が補助金というふうな意味を含めたものだったか、よく
御説明がありましたが、この十万円というのは普通市町村に対す
る事務の補助金のほか、金でありますか、純然たる事務補
助のほかに金であるかどうか。あるいはそうでなく、事務補助
費のうちの一部であるか、そのとらへず、ともしれておりますが。

○税務第二課長(伊藤幸太郎君) 名稱は一般事務費ということござ

ございますけれども市町村に對し――配分いたされておりますもののほかの額でございます。(「了解」と呼ぶ者あり)

○三番(萩生田七郎君)よくわかりました。わかりましたがついて変態な行き方は考えもんと思ふんだ。予算の理念といひますかこれが没却されていると思う。それでならば進んではん難であつても各市町村へ流して各市町村が吸収して協議会を円満満にやうていくという案の方がいいと思ひますが。趣旨はわかたけれども予算の形態、そのものをあいまにするといふ意味においてどうも了解がゆる。

○十七番(嶋貫壮作君)それで一般市町村事務補助としてくるほかだとほかにしていただけたものが県(また)んですね。法務局からきたときに鑑山市で十七市に分けて――まったあとで仮に分けられなかつた町村から俺の分の分があるんじゃないかと申されたときにどうなります。

○税務第二課長(伊藤幸太郎君)その問題につきまゝでは再々申上げますように(「再々申上げますじゃないはいめてきくんたよ」と呼ぶ者あり)会長でありますので総会等の場所ですその実は果し列席いたります場所にあきまゝでござ了解をつけてございます。(「その文書なりなんなりありますか」と呼ぶ者あり)文書ではしてありませんけれども(「あ」とござうてないといった場合どうなります」と呼ぶ者あり)そういう懸念はおそらくないと思いますが。(「ない」といっても君がいつ通りになれば問題ではない、君がいつ通りにならない場合に問題が起る、それだから聞くんだよ」と呼ぶ者あり)

○三五番(松本藤太郎君)いまのお話によりますとなんか自治法の改正によってそういったような協議会の金をまたまた協議会長もやうである市の一般文へ入れてしまふ。してこからやうてくれということとは私は理解できないんですけれども、私はこいつ

ふうに考えてある、要するに法務省でもって千葉県県の外人登録に對しての事務費が二百万円あつた。それに對しての補助が二十万、事務費が二百万で補助が二十万あつたとしていさうのままだれば千葉市へそれだけ人数によつて事務の輕重によつて分けられてしまふ。ところがたまたま県の方へきた事務費以外の二十万という補助金を協議会の会場費やいろんな研究をしてあるからやてやろう。こういうふうに考えた、この金の出場所に困るから会長をやつてある館山市の支入の入れよう、県の親心といひますか、当然各市町村へ行くべき金の補助金を十万頭はねて協議会にやろうという途中で操作が行われてやらないか、こういうふうを考える。いずれにしましても實際に市長として受取る金ではない。千葉市の協議会の会長だからさういったような名にない。とつた金を会場費や研修費に使つてしまふ。實際市長として館山市へとつた金ではないんで一般支入へ入れてくるというこ

とに疑義を持つわけなんでそれでなくともできるだけ三算の膨張は避けたいと考えてあるときなんでこの点についてもう一ぺん御研究をねがいたいと思つて。

○三三番(望月暉作君)大体わかつたんですが、そうすると果下の外人登録の協議会からみると負担金は館山市だけが主であるかのごとくみえるわけですね、そうすると果も市も同じ自治体でありながら自治法ひもって果もせせない、館山市なりせると、ことが私は解せないんですが、はっきりわかるように説明してもらいたいと思います。

○総務課長(史戸貴君)ひとつ御参考までに申上げたいと思うんですが、東は八市幾輪組合がございしますが、それは市に對しまして毎年配分金の報告がございます。このなかで議會に對する分もあるのでございます。これはやはり館山市へ参りまして館山市から議會にやってもらいたいというふうになっております。一か

うは直接議会へやらないかといいますと、競輪組合の方では監査があつた場合に公共団体でない団体に対してはとせないんで発見されるという支障がある、それで内実は議会に対する交付金であるけれども、領収書の形式は館山市に対する配分金である、こういうふうな関係で扱ってもらいたいというふうにしてきてあります、あつてよくいへば、なにかの関係でどういったふうなものを持つものであろうかと考えます。ですからこんどただいま予算が非常に複雑になるというふうなお話でございますが、競輪の議会に対する交付金は市といたしましてはやはり取扱ひといたしましては、こういう取扱ひといたしたいと考えておりますのでよろしく御了承願ひたいと思ひます。

○十七番(嶋貫社作君) 皆さんがみてきたようなウリをつかないようにつけて下さい。なぜかといいますとこの問題が起つてどなたが折衝したか知りませんが、あなた方が答弁するがごとく折衝したものの

ではないと思います。それを自分がいかに折衝したのかのごとく言さうしてごまかしておればいいところいうふうな態度はぼくはきらいです。だからこの~~折衝~~に当たった人がちゃんと答弁に立ってやっていただきたいと思います。

○議長(石井潔君)——ばうく休憩をいたします。

午後三時三十三分休憩

午後四時 五分開議

○議長(石井潔君) 休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君) 申上げます。当局より議案オニ字原案を訂正いたしたいという申出がありまして、たので当局よりその説明を求めます。

の総務課長(兎戸貴君)ただいま議長よりお話のございまゝた議
案オニ号を原案訂正をいたしますのでその個所を御訂正を
がいたいと思ひます。

議案オニ号のオ入の数字でございしますがなかの数字で三十五万と
なっておりますのを三十五万オとも同じく三十五万とあります
のを三十五万と御訂正をゆがいたいと思ひます。

つぎはオ入の欄のオ六款の国庫支出金でございしますがこの
欄を全部削除していただきます。

それからオ入合計欄のなかに追加更正予算額三十五万とな
っておりますのを三十五万に直していただきまして合計欄
を二億九千九十二万二千六百三十四のようにな御訂正をゆがいま
す。

それからつぎはオ入の欄でございしますがオニ款の市役所費
この関係欄を全部まづ消削除いただきましてオ入合計額

の三十五万となつてありますのを三十五万に御訂正をいただきます
してそれから合計額の欄を又入と同じく三億九千九十二万二千
六百三十四のように御訂正をおねいいたします。以上です。

○議長(石井梨君)ただいまの原案訂正を承認することに御異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)御異議なしと認めます。よつて原案は訂正
をさしました。

○議長(石井梨君)お諮りいたします。

原案を訂正されました二子議案を承認するに御異議ご
うございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)御異議なしと認めます。よつて二子議案は
決定されました。

議長(石井 孝君)これをもって今日の議事は全部議了いた
まうてございます。長時間にわたりまして御審議あり
ましてございまして。

午後四時十一分閉会

昭和三十三年一月十六日

鎌山市議会議長

石井 孝

会議録署名議員

遠山ヨネ子

同

山本久一

創山市議會

